6．本時の目標　（どんどんコース）

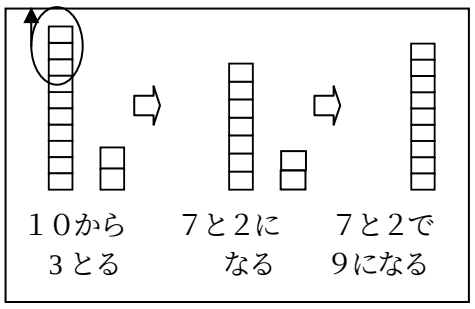
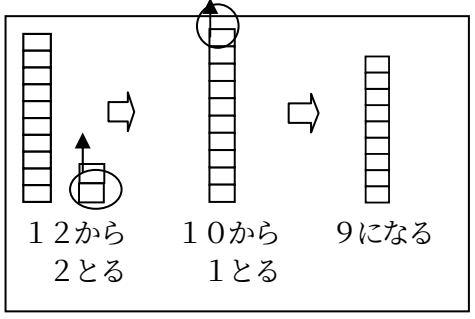
１２－３の計算の仕方をブロックや図を使って考える活動を通して，（１０－３）＋２と（１２－２）－１の考え方の違いが分かり，１２－３の計算を１２から２をひいて，のこりの１０からさらに１をひくやり方（減減法）で計算することができる。

7．本時の評価規準

【数学的な考え方】被減数を十の位と一の位に分けて，一の位からひこうと考える。

【表現・処理】１０いくつから１位数をひいて，差が１位数になる減法について，減減法で計算することができる。

8．本時の展開　（3／9時）

過程	主な学習活動	学習集団	個のつまずきに対する指導援助
素材提示	1．素材提示をする （問題）にんじんが　１２ほん　あります。 3ぼん　たべます。 なんぼん　のこるでしょう。	全体	見通しを持つ段階 C：問題場面が把握できない。 → T：「“ たべます ”というのは，ふえるのかな。へるのかな。」と問いかけ，ブロック操作の手の動きをさせる。その動きと側面掲示を対応させて，ひき算であることを導く。
課題化	2．素材を式に表す ○わかること・・・・にんじんが１２ほん 3ぼんたべた ○きいていること・・・なんぼんのこるでしょう ○式はどうなりますか。 「たべます」だから，式は１２－３になります。	全体	
	3．本時の課題をつかむ。 ○前の時間の学習と同じところ，違うところはどこですか。 ・今日も１のくらいからひけないよ。 ・前は１０より大きい数から５より大きい数をひいていたけど，今日は５より小さい数をひいているよ。 （課題）１２－３のけいさんのしかたをかんがえよう。	全体	・数の大小を考えて、立式させる。
課題追究	4．１２－３の答えの出し方をブロックや図を使って考える。 ・考えた方法を操作に合わせて話したり，図や式に表したりする。 ①減加法 「2から３はひけないので１２を１０と２にわけます。 １２のなかの１０から３をひいて７。 ７と２で９になります。」 １２－３ １０－３＋２ ７　＋２＝９  １０から３とる　７と２になる　７と２で９になる	個	課題追究における段階 C：ブロックが動かせない。 → T:「はじめにどこからブロックをとるといいいかな。」と問いかけ，ブロックをとらせる。 ・ C：答えを見つけることができるが，お話ができない。 → T：ブロック操作したことを言葉にかえる。「３をここからいちどにとったんだね。」「３を２と１にわけてとったんだね。」などと順に話していく。
	②減々法 「3を2と1にわけます。 １２から３のなかの２をひいて１０。 １０から３のなかの１をひいて９になります。」 １２－３ １２－２－１ １０　－１＝９  １２から２とる　１０から１とる　９になる	全体	・自分の考えができた子には、ブロック操作→ブロック図→式，または違う考え方をするようになげかける。 ・「○○さんのやり方と自分の考えたやり方は同じですか。」と問い，全員の考えを確認する。 ・ブロック図と式が同じ考えであることがむすびつけられるように、また、減加法と減減法の２つの考え方の違いがわかるように、板書に位置づける。
解決	5．全体で考えを確かめる ○このなかで，考え方が同じものはどれですか。 ○①と②のちがいはなんですか。 ・①は，３を１２の１０のほうからひいているよ。 ・②は，３を２と１にわけて，１２の２のほうからと１０のほうからひいているよ。	全体	・同じところを見つけさせるなかで，減加法と減減法それぞれブロックと図と式が同じ考え方をしていること理解させる。 ・①と②のちがいを考えさせるなかで，減加法のやり方と減減法のやり方を確認する。
一般化	6．まとめをする ①１０からひけばけいさんできる。 ②ばらからひいて，そのあと１０のかたまりからひけばけいさんできる。	個	・まとめでは，減加法・減減法のどちらの計算のしかたも認めていく。
評価	7．減減法で計算する。		・図や式を使って減減法で計算させ、減減法の計算の仕方をおさえる。